

// 卷 頭 言 //

日本ライトハウス養成部

田邊 正明

コロナウィルスの感染がとまらず、日本ライトハウス養成部が主催している視覚障害生活訓練等指導者養成課程は昨年よりオンライン上での講義を取り入れ、YoutubeやZoomなどのツールを駆使して開催を継続している。入講式に関しては、昨年は受講生は自宅に5月いっぱい待機していただいたので参列はせず、職員と来賓のみでビデオ撮影し、Youtubeにファイルを変換して日本ライトハウスのホームページから閲覧できるようにした。本年度の入講式は厚労省が前例のない仕事量の増加もあって、来賓の列席はなく受講生と日本ライトハウスの職員のみで開催した。さすがに白杖を使った歩行訓練の実技はオンラインというわけにはいかず、全国から放出に集まっていただき、日本ライトハウス周辺の屋外で例年と同様に週3回汗を流している。

コロナウィルスが出てきてからはオンラインでの会議や、授業が当たり前になっている。そこではパソコンやスマートホンを持っていることが前提である。電子計算機の発明から、コンピュータへと進化して単なる計算機から情報端末となり、アメリカの軍事技術として発達したインターネットが民間にあつという間に定着し、有線通信から無線通信技術の発展によってスマートホンへと進化し、電話の機能から個人の情報管理端末になって、いまでは世界中の人々が情報を共有できるようになった。無線通信の技術的には1984年(S59)ごろから日本に普及しだしたアマチュア無線を利用したパケット通信でテキストファイルやバイナリファイルの送信が可能となっていた。個人的にはアマチュア無線衛星「ふじ」を利用して世界中のハム(アマチュア無線家の略称)とテキストファイルの交換ができて感激していたころが懐かしくなってしまった。いまや無線通信がなんの疑問もなく全ての人々ができてしまっている。

現在では学会誌も論文の発表から紙面になるのに時間がかかるため、発表スピードの速い電子版のみになっているものもある。引用件数などもデータとして迅速に集計されるため、論文誌の格付けも容易にされるようになった。

「視覚リハビリテーション」の小冊子に至っても、2013(H25)年より過去の論文をPDFのファイルに変換して日本ライトハウスのホームページ上に公開してから公開ページのアクセス数が325,000を越え(2021年5月20現在)、視覚リハビリテーションの論文をインターネット上で検索される人が増えたことが分かる。また、同時期にYoutubeに公開した「視覚障害リハビリテーション従事者の養成プロセス」のビデオは42,000のアクセス数となっている。

時間は非可逆的であり、日常生活はグローバル化を止められない。すべての物、人がデジタルなデータとして交信されており、絶えず自らが関与しないところで評価されている。個人情報を守秘とは名ばかりで、すべてはデータ化され、世界を漂流する。人間の力を越えた光のスピードで半導体が判断した結果を人間が享受することが当たり前の世界で生きていかなければならない。

霊長類で唯一道具を作るすべを覚えた人間は、新たに知的な非生命体と共存する必要があり、何を生活の糧、仕事にするのかの価値観もどんどん変化している。放出の駅前にあった三菱UFJ銀行もなくなり、人が消えた。ただ黙々とATM端末のみが働いているが、その端末も減少傾向にある。電車にはただ黙々とスマートホンを見る人々がいる。

4倍の単眼鏡で近いところを見るときは、4倍ではない!

じゃあ、何倍になるの?

みてや

を使えば、すぐにわかります

4倍の
単眼鏡



NEITZ PK-4 Dタイプ

作動距離に合わせた
屈折力(D)を表示



作動距離^{※1}での倍率^{※2}がわかります

^{※1}対物レンズと物体間の距離のこと
(作業するときの距離のようなもの)

^{※2}屈折力(D)を4で割った数値
例 20Dなら、5倍

使い方はこちら↓

<https://lowvision.sakura.ne.jp/HowToUse.pdf>

価格: 14,000円

養成部で
販売中

《養成部へのお問い合わせ》

☎ 06-6961-5521

✉ yoseibu@lighthouse.or.jp